

最終論文フォーマット①

- ・日本語文法上の表現(接続語、主述関係、指示代名詞など)の正確性に留意すること。
また、学術論文にふさわしくない表現(例えば、「です」調、「だ」調、体言止め)は割けること。
- ・文字数は 30,000 字前後 (参考文献を含む)、ワープロ書きとし、図表や正誤表など部分的にも手書きは禁止する。
- ・原稿は横書きとし、フォントは「MS明朝」「Century」とする。
- ・本文のフォント指定は 9ポイントを用いること。
- ・英数字は半角を使用のこと。数字は算用数字を使用のこと。
- ・目次からは段組みを2段にし、日本語入力のみの場合の文字数を24字ずつとする。
- ・カッコは全角を使用し、カッコおよびカッコ内はフォントサイズを1ポイント下げること。
- ・成語、慣用語、概数などには漢字を用いる。(例) 第一に、第二次世界大戦、十数種 etc
- ・第一段のマル付数字、①、②、③、第二段は1. 2. 3. 第三段は(1)、(2)、(3)を用いる。
- ・表題のフォントは、主題は16ポイント、執筆者氏名が11ポイントとすること。副題(もしあれば)のフォントサイズは12ポイントを目安とし、主題との長さのバランスを考えて調整してかまわない。なお主題および、副題は全角ダッシュも含めて「太文字」とすること。段落設定は、表題と副題(もしあれば)が「中央揃え」配置。
- ・
- ・章タイトルは10.5ポイント、上2行下1行の空行を挿入する。節タイトルは10ポイント、上1行下1行の空行を挿入する。項タイトルは9ポイント、上1行の空行を挿入する。「補録」と「参考文献」のタイトルは10ポイントで太文字にし、上2行下1行の空間を挿入する。
- ・脚注は「文書の最後」に挿入すること。フォントサイズは(脚注の数字も含め)8ポイントとする。また、注は文の右上に挿入すること。
- ・段落設定は行間「固定値」間隔10.5ポイントとする。
- ・脚注の数字が、1から9の場合はその直後に「半角スペース+半角スペース」を空け、10以降は「半角スペース」を空けること。(脚注上の文章をそろえるための配慮である)
- ・参考文献を巻末にリスト化すること。フォントと段落の設定は、上記の脚注の指定に準ずる。
本文や脚注で言及した文献は読んでいなくても余さずリストに載せ、逆に読んでいても言及していない文献はリストに載せないこと。
- ・参考文献については、著者全員の名前を明記することファーストネームも省略してはいけない。しかし、どうしてもファーストネームがわからなものに関してのみ頭文字だけで構わない。また、同じ著者を連続して記載する場合、2回目以降は「———」(3文字分の全角ダッシュ)を用いて、省略すること。各参考文献の末尾の句点は「.」(全角ピリオド)とする。
- ・本文や脚注において、既存文献に言及する際には、著者名と公表年以外を省略して言及すること。著者が2名の場合、(白木・石井[2002])や(Shiraki and Ishii[2002])と明記すること。3名以上の場合初出のみ(細川・伊佐次・高崎[2007])や(Hosokawa, Isaji and Takasaki[2007])著者名のファミリーネームを略さず明記し、2回目以降に言及する場合には(細川・他[2007])や(Hosokawa, et al[2007])と略記すること。なお、著者が外国人であれば、本文中においてはカッコにはMS明朝を用いて、日本人著者の場合の参考文献においては、「著者名+[発表年]+『文献タイトル』+出版社」と明記すること。また、

参考文献を書く場合には、著者は3名以上であっても略記せず、著者全員の名前を明記し、カッコ内はフォントを小さくしないこと。なお、「互恵性 (reciprocity)」のように、「日本語(英訳)」と表記する場合には、全角カッコを用いる。

- ・図表をのせる際には「■表——1」のように「■+表+3文字分の全角ダッシュ+数字」と書き、その真下に表と同じ横幅で3ポイントの太さの線引くこと。またその下部にフォント9ポイントでタイトルをつけること。図表番号は1から連番とする。図表は提示しっぱなしではなく、本文中で必ず言及すること。言及する際には下図のようにではなく、「表1のように」の要領で、必ず図表番号を使って、記述すること。既存研究からの引用での場合、図表の下部に、カッコ書きで出所お明記をすること。
- ・罫線を用いて表を挿入する場合には、線の太さを必ず「0.5ポイント」で統一すること。表の外側のみ太くしたり、点線を用いたりしてはいけない。なお、実証分析をする者はt値や標準化後係数推定値を記載したりする表は不要である。(パス図表に記載してあるため)
- ・統計ソフトを使用する際には、「SAS System for …」のように前置詞のみ頭文字を小文字にすること。
- ・実証分析で自作の質問票を用いた場合、質問票を「補録」(「補遺」や「Appendix」は×)で明示すること。

要約論文フォーマット

- ・日本語文法上の表現(接続語、主述関係、指示代名詞など)の正確性に留意すること。
- ・文字数は3,000字前後(A4で2枚以内)で、ワープロ書きとし、図表や正誤表など部分的にも手書きは禁止する。
- ・原稿は横書きとし、フォントは「MS明朝」「Century」とする。
- ・本文のフォント指定は9ポイントを用いること。
- ・英数字は半角を使用のこと。数字は算用数字を使用のこと。
- ・カッコは全角を使用し、カッコおよびカッコ内はフォントサイズを1ポイント下げること。
- ・成語、慣用語、概数などには漢字を用いる。(例) 第一に、第二次世界大戦、十数種 etc
- ・第一段のマル付数字、①、②、③、第二段は1. 2. 3. 第三段は(1)、(2)、(3)を用いる。